

小学生の保護者の皆様へ

Machida Next Education

～いつでも どこでも だれとでも～【家庭学習編】

家庭学習推進の4つの視点

- 1 学習習慣の確立
- 2 生活習慣の定着・規範意識の醸成
- 3 読書活動の推進
- 4 ICT を活用した家庭における学びの推進



家庭学習の推進で



【保護者向け動画】

町田市の ICT 教育の取組

<https://youtu.be/9yhGHipkjCo>



2024年6月
町田市教育委員会

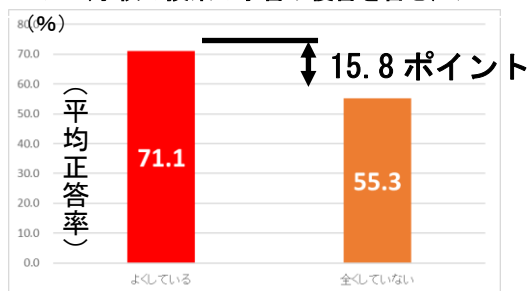
学校と家庭で連携した取組

1 学習習慣の確立

「学校と協力して、宿題や予習・復習など計画的に取り組みましょう。」

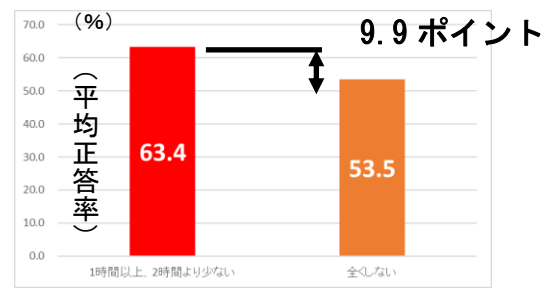
学習習慣と学力の関係「令和5年度全国・学力学習状況調査より」

＜家で自分で計画を立てて勉強をしていますか（学校の授業の予習や復習を含む）＞



(※正答率は、国語、算数の平均値)

＜学校の授業時間以外に、普段（月～金）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか＞



(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)

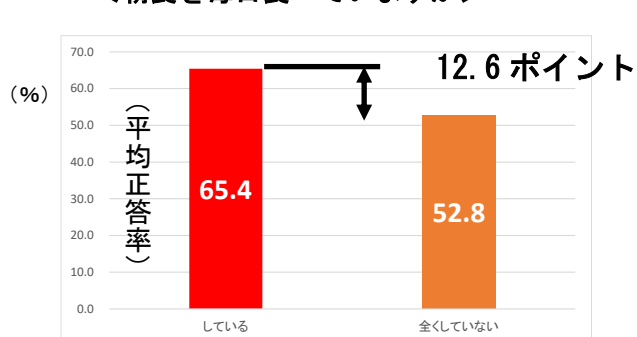
家で自分で計画を立てて勉強している児童と全くしていない児童では、正答率が15.8ポイントもの差があります。また、学校の授業以外の1日当たりの勉強時間について、「30分以上、1時間より少ない」と回答した児童と「全くしていない」と回答した児童では、9.9ポイントもの差があります。

2 生活習慣の定着・規範意識の醸成

「早寝、早起き、朝ご飯を心がけましょう。テレビを見る時間、ゲームで遊ぶ時間、携帯電話を使う時間を決め、SNSルールを作りましょう。」

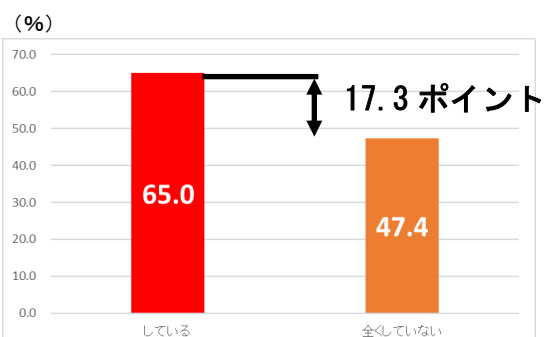
生活習慣と学力の関係「令和5年度全国・学力学習状況調査より」

＜朝食を毎日食べていますか＞



(※正答率は、国語、算数の平均値)

＜毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか＞



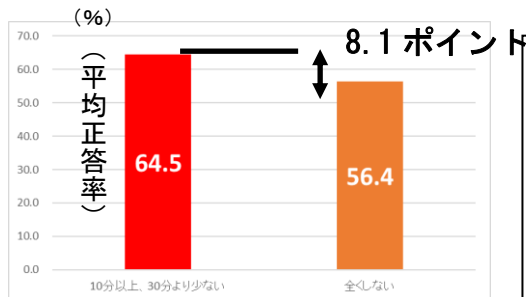
朝食をとっている児童と、全く食べていない児童では、正答率が12.6ポイントもの差があります。また、毎日同じ時刻に寝ている児童と寝ていない児童では、17.3ポイントもの差があります。規則正しい生活をする事は、学力の向上につながる傾向があります。

3 読書活動の推進

「家で本に親しむ時間をもちましょう。」

読書習慣と学力の関係「令和5年度全国・学力学習状況調査より」

<学校の授業時間以外に、普段（月～金）、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか>



普段、授業以外の1日当たりの読書時間について、「10分以上、30分より少ない」と回答した児童と「全くしない」と回答した児童では、正答率が8.1ポイントもの差があります。読書習慣を身に付けることは、学力の向上につながる傾向があります。

(※正答率は、国語、算数の平均値)

電子書籍サービス

町田市立図書館は、2022年10月から電子書籍サービスを開始しました。電子書籍サービスとは、タブレット端末やスマートフォン等の端末を介して、電子書籍を読むことができるサービスです。これにより、いつでも・どこでも・図書館へ来館せずに本を借りることができるようになりました。児童・生徒にも電子書籍サービスの利用IDを付与しており、子どもたちがタブレット端末から図書館の電子書籍サービスを利用できるようになりました（タブレット端末には、電子書籍を閲覧するためのアプリ「Libby」が導入されています）。学校内外における読書活動にご利用ください。

また、洋書には音声付き電子書籍もありますので、英語に親しむ機会の充実につなげることもできます。



4 ICT を活用した家庭における学びの推進

町田市のICT教育の取組について

「ICT を活用した家庭での学びのスタイルを創りましょう」

学校では子どもたち一人ひとりが、タブレット端末を活用します。これまでよりも自由で想像力を働かせる学びができるようになります。クラウド型小中一貫学習支援ソフト(ドリルソフト)は、子どもたちの学習記録データを蓄積し、一人ひとりの力に合った問題をAIが出題して解説を行います。また、データに基づき、子どもたちが苦手になっている内容を学校の授業に取り入れることができます。タブレット端末を持ち帰り、自らの学びのスタイルを創り出すことで、学習意欲も高まっていきます。

学校やご家庭での学び方について

学校で

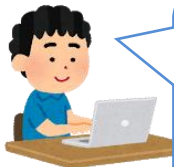
授業中、先生の質問に対して



手を挙げて
いるけど、
なかなか
当たらない。



みんなの前
で発表する
のは、緊張
する。



自分の意見
をいつでも
みんなに伝
えられる。
友達の考え
もよく分か
るよ。



大きな声で発
表するのは苦
手だけど、こ
れなら自分の
考え方を伝え
やすいよ。



ご家庭で

もっと難しい問題に
挑戦したい。



問題が難しく
て、一人では
分からない。



間違えて
も、説明し
てくれる
機能があ
るから分
かりやす
い。



自分に合
った問題
を宿題で
できるか
ら、学習
が楽しい。

クラウド型小中一貫学習支援ソフト(学習ドリルソフト)で出来ること

学習ドリルソフト「Qubena(キュービナ)」

○小中5教科対応(国語、算数・数学、理科、社会、英語)AI型教材です。

※小(中)学生でも、中(小)学校の問題を利用することができます。

○学習履歴を経年で蓄積しています(小・中学校間での引継ぎにも対応)。

※習熟度がA~Dで表示され、苦手分野が簡単に分かります。

○AIが児童・生徒の学習履歴(得意・不得意)を分析し、個別最適な問題を出します。前の学年の学習内容につまずきがあるときは、AIがその範囲までさかのぼって出題するので、苦手な問題や単元もしっかり理解することができます。

○教員は、クラスの学習状況(履歴)を確認することができます。

○登校が難しい児童・生徒への支援や放課後学習でも活用できます。

○英語4技能(「読む」「聞く」「書く」「話す」)にも対応しています。

① タブレット端末を起動するか、ご家庭のタブレットで学校のGoogleアカウントにログイン

② <https://machida.qubena.app/> に進み、「Googleでログイン」を押す



クラウド型小中一貫学習支援ソフト（学習ドリルソフト）を活用した新しい学びの実現

授業中

児童・生徒	教師
<p>○今日の学習内容を学習ドリルソフト「キュビナ」で定着を図る。</p> <p>この単元は得意なので、発展問題にも挑戦してみよう。</p> <p>間違えた問題も、詳しい解説を読んで考え方が分かった。似た問題は、自分の力で解くことができた。</p>	<p>●一人ひとりの学習の進み方を、教師用画面で確認する。</p> <p>〇〇さんは、◇◇の問題を連続して間違えているので、個別に声掛けすることにしめよう。</p> <p>この問題は、間違えている生徒が多いので、次の時間にもう一度説明しよう。</p>
<p>個別最適な学習（自分にあった学習）に取り組めます。</p>	<p>個々の学習の進捗状況を把握します。</p>

家庭学習（タブレット端末の持ち帰り）

<p>学校から、キュビナの宿題がでた。単元の復習に取り組もう。</p> <p>この単元は得意だ。一つ上の学年の問題にも挑戦してみよう。</p> <p>授業で学習した内容で、自分で確かめたい箇所がある。タブレット端末を用いて、調べてまとめてみよう。</p> <p>テスト前の復習は、苦手な問題をもう一度解き直してみよう。</p>	<p>自分がどのくらい学習したか、どのくらいできているかを、キュビナの「学習履歴」で確認しよう。</p> <p>授業で学習した内容の中で、理解が不十分な箇所があった。キュビナの「5分間復習」で復習しよう。</p> <p>家庭学習の状況はどうか。進んでいない生徒には声を掛けることにしよう。</p>
	<p>個々の学習の進捗状況を把握します。個別の支援を検討します。</p>

次の授業

児童・生徒	教師
<p>○前時で学習した内容の振り返りを行い、学習内容の定着を図る。</p> <p>なるほど。学習内容を深く理解することができた。</p>	<p>●前時で扱った問題で、誤答が多かった問題について、再度説明する。</p> <p>キュビナの問題でつまづきやすい問題について、一緒に考えてみよう。</p>



文部科学省が作成したサイト「たのしくまなび隊」は、子どもたちがタブレット等を利用して学習できるコンテンツが紹介されています。当サイトを通じて、子どもたちが「知ること・学ぶことは面白い」と感じられるようなコンテンツ情報が多数掲載されています。家庭でもご活用ください。この他にも、タブレット端末のブックマークには、児童生徒の学習等に活用できるページが登録されております。

保護者の方へのお願い ～タブレット端末の貸与にあたって～

破損・紛失について

タブレット端末を破損、紛失した場合には、すぐに学校にお知らせください。破損・紛失の状況によっては弁償していただく場合がございます。



タブレット端末の返却について

卒業や転出の際には、学校に返却していただきます。また学校へ返却していただく時には、本体のほか、電源コードを忘れずにご返却くださいますよう、お願いします。

インターネット接続回線について

家庭での利用の際は、ご家庭のインターネット回線をご利用くださいますよう、お願いします。



タブレット端末の充電について

長期休業中や、学校と家庭で連続して端末を利用する際には、学校から充電器を持ち帰りますので、各ご家庭で充電してくださいませよう、お願いします。



タブレット端末使用にあたり、ご家庭でお子様と確認してください

学校でも指導いたします。ご家庭でもお子様と確認していただきますよう、お願いします。

取り扱いについて

タブレット端末は、「落とす」「たたく」「水に濡れる」などすると故障します。大切に扱うことを、ご家庭の使用でもお声掛けください。



情報モラルについて

「インターネットには、自分や友達の個人情報を書き込まない。」「自分の考えを伝える時には、内容や伝わり方を考えて、言葉や表し方を選ぶ」ことなど、インターネットやICTへの適切なかかわり方をご家庭でも話題にしてください。



端末管理機能について

インターネット上のお子様の安全を確保するため、学校でもご家庭でも安全にウェブサイトが閲覧できるように、フィルタリング設定を行っています。また、教育委員会では、タブレット端末のログを取得し、管理を行っています。

タブレット端末を使う時のやくそく（小学生）

<きほんのやくそく>

- タブレットは学習のために使います。学校でも、家でもそれ以外に使うことはきんしします。
- 落としたり、乱暴にあついたりしないようにしましょう。
- 水をかけたり、ぬらしたりしないようにしましょう。
- こわれた時は、学校に連絡してください。
- 自分のアカウントは、大切に管理してください。
- タブレットや学習ドリルソフトにログインする時のパスワードは他の人に教えないようにします。

こわれた時、調子が悪い時は、学校に連らくしてください。



<学習に使う時のやくそく（学校でも家でも同じやくそくです。）>

◎インターネットを使うとき

- 学習で使うサイト以外には、アクセスしないようにしてください。
- けんさくサイトは、学習に関係することを調べる時のみ、使いましょう。
- 自分や周りの人の個人情報（名前、住所、電話番号、写真）などは、インターネットに紹介したり、書きこんだりしてはいけません。

◎カメラを使うとき

- 学習に必要なことをさつえいする場合でも、他の人やものを許可なく勝手にさつえいしてはいけません。
- さつえいの時に周りにうつる背景も、個人情報につながる場合があります。さつえいするものや場所についてもよく考え、学校以外の場所や家でも許可なく勝手にさつえいしてはいけません。

◎意見を書くとき

- 相手をきずつけたり、いやな思いをさせたりすることを書いてはいけません。読む人への伝わり方を考えて、書くようにしましょう。

※みなさんが安全にタブレットを使うことができるようにするために、いっどんなことをインターネットで見たか、どんなことに使ったか、教育委員会で分かるようにしています。



持ち帰りのやくそく



- こわれないように、ランドセルに入れて持ち帰りましょう。
- 続けて利用するのは最長30分間とし、そのあとは必ず20秒間休憩をとりましょう。
- 利用時間は、60分間を上限として利用をしましょう。
- 家での利用は、決めた時間内で学習に活用するようにしてください。
- 利用時間以外は、家庭で保管場所を決めて保管してください。
- 充電器を持ち帰った日は、次の学習で使えるように、充電をしてください。

目とタブレットは、はなします。目がつかれた時には、遠くを見たり、休けいしたりします。

健康を守るためのやくそく



- しせいよくすわり、目とタブレットの間は、30cm以上はなして使いましょう。
- ねる1時間前からは、タブレットの利用をしないようにしましょう。

学校のやくそく

-
-



ご家庭でのやくそく

お家の方と話し合い、家で使う時のやくそくを決めましょう。(例:「夜9時以降は使わない。」など)

-
-



一人1台端末の使用 3つのポイント！

1 学習使用

学校でも家庭でも
端末は学習に使う



- 寝る 1 時間前からは、デジタル機器の利用を控える
- 端末は学習に関係ない目的で使わない
- 自分に合った問題に取り組む

2 目の健康

30・30・20 で
近視予防



- 目を、画面から30cm以上、離して使う
- 30分に1回は、20秒以上画面から目を離して、遠くを見る
- 1分間は休憩する
- 部屋の明るさに合わせて、画面の明るさを調整

3 悪口厳禁

悪口の書き込みは
法律で罰せられる



※発信元は特定できます

- 他人を誹謗中傷する投稿・書き込みをしない
- 他人のプライバシーにかかわる情報を投稿したり、書き込んだりしない
- 差別的な発言を投稿したり、書き込んだりしない

一人1台端末は、子どもたちの学習に役立てる道具です。子どもたちは、端末を使って自らの疑問について深く調べたり、クラウド型小中一貫学習支援ソフト（ドリルソフト）での反復学習など自分に合ったペースで学習したりすることができます。しかし、端末は便利な道具ではありますが、使い方を正しく理解していないと、視力や睡眠による影響や、インターネット上でのトラブルなどが心配されます。

教育委員会及び学校では、子どもたちが情報社会で生きていくために必要な資質と能力を身に付けられるようICTの活用を推進していきたいと考えておりますので、保護者の皆さまのご理解とご協力をお願いいたします。

児童・生徒の近視進行の予防法

日本の近視人口は8割から9割と、世界でも指折りに入ります。「学校保健統計調査」（文部科学省）によると、学校の裸眼視力検査で0.3未満の児童生徒が、昭和54年と平成27年の36年間に、小学校で3.1倍増加しています。タブレット端末使用による近視進行を、少しでも抑制するために、文部科学省「児童生徒の健康に留意してICTを活用するためのガイドブック（令和4年3月改訂版）」では、タブレット端末の利活用にあたって、健康面に関する留意すべき事項が整理されており、その中は近視進行予防について、「学童の近視進行予防7項目」（近視研究会 <http://myopia.jp/prevention/>）を次のように記載されております。

1. 1日にできれば2時間は外で遊ぶようにしましょう。
2. 学校の休み時間はできるだけ外で遊びましょう。
3. 本は目から30cm以上離して読みましょう。
4. 読書は背筋を伸ばし、良い姿勢で読みましょう。左右どちらかが本に近い状態にならないよう、均等な距離になるようにして読みましょう。
5. 読書・スマホ・ゲームなどの近業は1時間したら5分～10分程度は休み、できるだけ外の景色をみたり、外に出てリフレッシュしましょう。
6. 規則正しい生活（早寝早起き）をこころがけましょう。
7. 定期的な眼科専門医の診察を受けましょう。